

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	つまづきを解消し、どの子も「わかる・できる」が味わえるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりや、安心して、落ち着いて学習に取り組むための学習ルールや温かい学級の雰囲気づくりのための手立てを、授業を通して研究します。講師の先生にも来校いただき、国語科の授業を中心に授業づくりのポイントを学びます。	授業研究を通して、授業計画を示すことで見通しをもって学習する姿が見られた。掲示物の工夫や、ワークシートなどの支援も子どもの理解につながった。また、返事や話し方の話型など、全校で取り組むルールも共通化できた。子ども達が身に付けづらいうちも見えてきたので、焦点化し、さらに工夫した授業作りを行っていききたい。	B
豊かな心	各教科等において、道徳の時間との関連を図った指導を行うため、別業の見直しと改善を図ります。また、道徳教育重点指導内容の授業を職員で見合い、子どもの姿を多く目で見取るとともに、各学級の道徳授業を年に1回、地域に公開します。豊かな人権感覚を育てるため、研修を行います。互いに授業プランを考えて実践します。	別業の見直し道徳の意識をもった教科指導につながった。また授業を見合うことで児童を見取る目が広がり、指導の質が高まることを実感できた。取組を来年度も継続して行うことでより道徳的価値を含む授業になると考えられる。児童の自己肯定感を高めるために視点を絞った指導を学年・ブロックで連携して行っていききたい。	B
健やかな体	①体力テストの結果をもとにした、体力向上1校1実践運動の促進を図ります。②今年度のテーマを「早寝、早起き、朝ごはん」と設定し、よりよい生活習慣の意識づけを図ります。③体力テストの結果等を保護者と共有するなど、家庭や地域と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図ります。	体力テストの結果を分析し、始業前や休み時間を利用した体力向上のための運動の促進を図った。また、学校保健委員会ではテーマを「規則正しい生活で元気アップ大作戦！～早ね、早起き、朝ごはん～」として、学級や全校で取り組み、家庭とも協力しながらよりよい生活習慣の意識付けにつなげることができた。	B
児童生徒指導	あいさつの励行や、小中一貫推進ブロックの生活スタンダードをもとに、基本的な生活習慣の指導を積み重ねていきます。また、YP-アセスメントを活用し、児童や学級の実態把握を行い、自尊感情を高めていくよう指導の重点化を図り指導していきます。	管中ブロック共通スタンダードや池上スタンダードをもとに指導に取り組んできた。今後は指導の内容を継続しながらさらに重点項目を絞って指導していく。職員研修でYP-アセスメントの活用方法について学んできた。研修の成果をもとに児童一人ひとりの個に応じたプログラムを実施し、児童指導に生かしていく。	B
特別支援	①子どもの教育的ニーズを的確にとらえ、本人や保護者の願いも聞きながら、個別の支援計画を作成します。②学習支援がより効果的にできるように、学習ルームを整備します。③外部の専門機関とも連携して、児童理解や指導力の向上を図ります。	スクールカウンセラーによる研修や療育センターによるコンサルテーションを受けることで、児童理解や指導力の向上を図った。それを生かすことで、一人ひとりの児童の教育的ニーズをとらえ、必要な個別の支援計画を作成し、学習ルームの支援等効果的な学習支援を行うことができた。	B
地域連携	①地域の特色を生かした畑での栽培活動の充実を図ります。②見守り隊をはじめ、地域の協力者と児童の距離を縮めるようにします。③ホームページで、毎月、各学年が更新できるような校内体制をつくります。	新しいシステムでのホームページを開設し、定期的に更新できる環境を整えた。ホームページに関するスキルを身につけた職員が増えた。学校に近い場所に畑をもつことができ、栽培作物や栽培指導をしてくださる方をより身近に感じることができ、栽培活動に対する積極性が見られるようになった。	B
キャリア教育	①27年度作成したベースプランを生かした授業に取り組みます。②地域の教材を生かしたキャリア教育(横浜の時間)の単元開発に取り組みます。③キャリア教育に対する意識調査を行います。(教職員・児童)	地域の材を活かして学習の単元を開発したり、ベースプランを活かした授業に取り組んだりしてきたことで、子どもたちの基礎的・汎用的能力の育成につながった。ベースプランの加筆修正を行いながら、引き続きキャリア教育の視点をもって学習を進めていく。	B
人材育成・組織運営	年次研修では授業研究を通して授業力や児童指導力向上のための手立てを学びます。メンターチームの取組ではミドルリーダー・主幹教諭を中心に、経験年数の少ない教職員を全職員で支援します。児童理解・特別支援の研修を全職員で行い、専門性の向上を図ります。学校運営部会に全教職員が所属し、学校教育目標の具現化を目指していきます。	年次研修では授業改善や児童指導について若年層教職員を中心に全職員で学ぶことができた。メンターチームの取組では、教科領域指導について互いに学び合ったり、先輩教師から学んだりすることができた。校内組織の運営にあたっては、組織の中で意見を出し合い、全職員が参画意識をもって関わることができた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	ブロックの他校から①校内の環境が整えられ、校内外がとてもきれいである。②職員が児童の作品を大切に展示している。③掲示物がとてもよく工夫され学習の足跡が明確である。④児童が落ち着いて学習に取り組んでおり、学校の雰囲気落ち着いている。という評価を受けた。校内研究で「指導と評価の一体化」「授業のユニバーサルデザイン化」を目指し「学習のめあての明確化」「見通しを持った学習に繋がる掲示物の工夫」に取り組んだ事が評価されたと感じる。また、児童が落ち着いて学習できる学級・授業の風土づくりの取組や個に応じた特別支援教育の取組が学校の落ち着いた雰囲気につながったと考えられる。		
学校関係者評価	児童が自分から進んで挨拶してくれる。素直さや純粋さをもった気持ちの良い児童が多い学校である。また、学習中の姿勢がよく、「立腰」の取組がとても良いと感じる。姿勢について教師がきちんと指導をしていることがとても良い。学校の中がきれいで学習環境が整っている。昇降口の「今月の歌」の掲示が良い。また、図書館司書がいることで図書室がとてもよく整理され、きれいである。池上小学校の子どもたちは、約束をおおむねよく守って生活できている。全体的に雰囲気の良い学校である。		
学校経営中期取組目標振り返り	学経営中期取組目標の具現化に向け、組織的な取り組みを行った。児童数の減少と経験年数の少ない教職員の増加に対応するため、学級だけからの脱却を図ることが最優先課題である。今年度は学年や異学年、幼稚園や保育園、中学校、地域協力者の皆様と、人や自然とのふれあい、交流の場を広げることを通じて、児童に人とかかわる力を育てることができた。また、学校司書やボランティアとの連携により、図書館の環境整備が進むとともに学習において、情報を活用する力を育てることができた。来年度はさらに中学校ブロックでの情報共有を図り、年度当初に年間計画を作成し、見直しをもって重点分野の取り組みを進めていく。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	b5		
豊かな心	b6		
健やかな体	b7		
	b8		
	b9		
	b10		
	b11		
人材育成・組織運営	b12		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c5		
豊かな心	c6		
健やかな体	c7		
	c8		
	c9		
	c10		
	c11		
人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			